



— 文 人 箋 —

B6サイズ(182×128mm)やや小ぶりの便箋です。一言メッセージを伝えるにも、長文の手紙を何枚にも書いていただいても、趣きがあるように当館の文人画コレクション中の名品、野呂介石《青緑梅林山水図》の図版をデザインしています(名付けて「文人箋」)。
作品全体をあしらったものと、満開の梅花の一枝をそえたものとの二種類の便箋が10枚ずつ入って一冊になっています。これに書くと言葉にも文人の風格が漂う…かも。



絵はがき：100 円
桑山玉洲《秋景山水図》、池大雅《幽溪釣艇》、村上華岳《洞窟老子》、稗田一穂《天宇》、原勝四郎《江津良の海》、佐伯祐三《リュクサンブール公園》、藤島武二《聖女》、村井正誠《人》、潮隆雄《月下涛声》などなど田辺市立美術館が収蔵する名品の絵はがき全61種類があります。

アートファイル：200 円
桑山玉洲《四季草花図》、稗田一穂《鸚鵡と花》、佐伯祐三《リュクサンブール公園》、潮隆雄《白涛》の4種類。A4サイズで大切な資料などもびったりおさめます。ちょっとしたプレゼントにもおすすめです。

テレフォンカード (50 度数)：500 円
桑山玉洲《四季草花図》、稗田一穂《春巡る熊野》、佐伯祐三《リュクサンブール公園》、《田辺市立美術館―夜景》の4種類。最近ではあまり見かけなくなったテレフォンカードですが、コレクションするなら欠かせないアイテム。お得な50度数500円です。

文人箋：350 円
野呂介石《青緑梅林山水図》、今年7月から販売の新グッズです。詳しくは本紙折込ページをご覧ください。

ご観覧の際には、受付のグッズ販売コーナーもぜひご覧ください。もちろんグッズ購入だけのご来館も歓迎です(展覧会をご覧にならない場合の入館は無料となっています)。通信販売も行っていますので、美術館までお気軽にお問い合わせください。

(主査 南田 真実)

他にも過去の展覧会の図録や所蔵品目録なども販売しています。
詳しくはHPをご覧ください。 <http://www.city.tanabe.lg.jp/bijutsukan/>

絵画と出会う「この一点!」

★特別展：詩人たちの絵画

会期：9月15日(土)～11月4日(日)



立原道造《飛行船》(仮題) 1927～31年頃 信濃デッサン館寄託品

立原道造はことのほかパステルを愛好した。この画材に特有の柔らかな発色は、正に立原の抒情に満ちた詩の作風に通じるものである。数多く残された立原のパステル画のなかに東京府立第三中学校(現・都立両国高等学校)在学中に描かれたとみられる一群の作品があり、図版の《飛行船》(仮題)もその中の一つである。同様に飛行船を扱った1930年の年記の入った作品が他にあり、この作品も同じ頃の制作とみてよいだろう。1929年に立原は日本に寄港したドイツの飛行船ツェペリン号を霞ヶ浦の飛行場に見に出かけており、そのときの印象が背景にあるのかも知れない。幻想的な様々な要素を一つの画面に童話風に構成する表現や、飛行船のモチーフなどから思い起こされるのは、同時代の画家、古賀春江の作品だが(飛行船がモチーフの一つとなっている代表作《海》は1929年の二科展出品作)、その影響関係については今後の研究課題としたい。

(学芸員 三谷 渉)

田辺市立美術館へのきもち⑧

私は本紙「ORANGE」の第11号から第16号までの編集を担当していました。毎号少しずつ改良を加えていましたが、いくらかでも見やすく役立つ紙面へとなっていたなら幸いです。この「美術館へのきもち」のコーナーは、毎号誰に原稿をお願いするか悩みましたが、4月の人事異動で思いがけず自分が依頼を受けて執筆する立場になりました。

美術館で勤務した3年の間に、田辺市立美術館は開館15周年を迎えたり、学生及び18歳未満の方の観覧料を無料とする条例改正を行ったり、全国植樹祭に際して天皇皇后両陛下をお迎えしたりと、多くの出来事がありました。

この間に私が課題に思っ取り組んだのは、美術館の活動をより多くの方に知っていただく事でした。勤務して2年目の秋から、新庄総合公園で年2回行われるNPO法人花つぼみ主催の花まつりで、ブースをお借りして期間限定の招待券を配布したり、ミュージアムグッズの販売を行ったりすることを始めました。おかげで、花まつりの期間中は多くの方にお越しいただけるようになり、美術館の活動を知っていただく良い機会になっていると思います。

しかし、若い方の来館はまだ少ないのが現状です。学校の授業や遠足での見学も徐々に増えてはきていますが、もっと普段から気軽に来ていただけたらと思います。昨年4月から、学生・18歳未満の方はいつでも無料で作品を鑑賞することができるようになっていきますので、まずは美術館に足を運んでいただけたらと思います。

他にも美術館のすべき情報発信として、遅れていたインターネットを通じての館蔵作品のデータの公開にも取り組み、文化庁が運営する「文化遺産オンライ

ン」にデータを登録しました。現在では「文化遺産オンライン」の「文化遺産データベース」から田辺市立美術館の収蔵作品を検索することができるようになっています。画像の登録や、ホームページとの連携が課題になっていますが、次の担当者に引き継いでいますので、是非頑張してほしいと思っています。

美術館では展覧会の他にも講演会やワークショップ、コンサートなども企画して開催しています。これらをより充実した内容にして、もっとアピールしていけばよいのではないかとも思っています。

美術館を設置しているのは和歌山県内の市町村で田辺市だけです。美術館のスタッフの一員からは離れましたが、これからも田辺市立美術館がより多くの方に親しまれ、市民の皆様の文化的な生活の向上、充実に資するように期待しています。



編集を担当した本紙第11号～第16号:写真上
年報第2号(平成13・17年度)、第3号(平成18・22年度)も編集し刊行することができました:写真下

(田辺市やすらぎ対策課 主事 松原 麻衣)

編 集 後 記

今号から編集を担当することになりました。
美術館や博物館は好きで展覧会があるとあちこちに出向いていましたが、まさか自分が美術館スタッフになるとは…。そして、広報紙の編集に携わる事になるとは思ってもいませんでした。至らぬ点は多々ありますが「田辺市立美術館に行ってみたい!」と思っていただけのような「ORANGE」を皆様にお届けしたいと思っていますので、よろしく願いいたします。(本館 m.m.)

田辺市立美術館NEWS

ORANGE

Vol.17



日高昌克《晩秋の山》

1955(昭和30)年

作品紹介 日高昌克《晩秋の山》

田辺市立美術館蔵

日高昌克は本業である医業の傍ら、洋の東西を問わず美術の研究を続け、ついには医業を廃してまで絵を追及し続けた画家です。昌克は1954(昭和29)年、和歌山県伊都郡笠田町(現在のかつらぎ町)の背山に住まいを移してここに画室をかまえました。この頃は関節リウマチスの悪化ですでに歩くことが出来なくなっていたため、床の中から観賞出来る背山の風景を見ながら絵筆をとっていたのです。この頃からの作品の多くが「胸中の丘壑」と呼ばれており、昌克もその著述のなかで「四季おりおりに移りゆく背山の風光は晴に宜く、雨に宜く、月雪に宜く、朝霧夕靄、悉くこれ皆好画材である。」と述べ、床の中から観賞出来る背山の移りゆく四季を思いのまま描いていました。

(主任 辰巳 充)

〒	-
ご住所	
電話番号	-
お名前	

田辺市立美術館NEWS ORANGE Vol.17

編集・発行：田辺市立美術館／熊野古道なかへち美術館

発行年月日：平成24年10月1日

田辺市立美術館

〒646-0015 和歌山県田辺市たきない町24-43
TEL.0739-24-3770 FAX.0739-24-3771
<http://www.city.tanabe.lg.jp/bijutsukan/>

田辺市立美術館分館
熊野古道なかへち美術館

〒646-1402 和歌山県田辺市中辺路町近露891
TEL.0739-65-0390 FAX.0739-65-0393
<http://www.city.tanabe.lg.jp/nakahechibijutsukan/>

没後30年 朝井閑右衛門

来年は、詩人草野心平が墓碑に「独創傑出の画家ここに眠る」と記した朝井閑右衛門が亡くなってから30年の年になります。これを機に、横須賀美術館と当館の二館でその画業を振り返る展覧会を開催します。

朝井は本名を浅井實とし、1901(明治34)年、大阪に生まれました。元々は紀州藩に仕えた家柄で、このことは後年まで朝井の意識にあったようです。図版の作品のモデル、田辺市出身の経済学者(東京大学教授、日本学士院院長などを歴任)で美術品の収集家でもあった脇村義太郎については「郷里の先輩」と語っています。

家庭の不和などで青年期は不遇でしたが、上京して洋画を学び、25歳で二科展に初入選して以後は着実に画家としての地歩を固め、35歳のときに文部省美術展覧会に出品した500号(2.7m×3.5m)の大作《丘の上》は文部大臣賞を受賞しました。

戦中はたびたび中国に渡り、上海で終戦を迎え、1946(昭和21)年に引き揚げて以降は横須賀市田浦でおよそ20年間、その後鎌倉市由比ヶ浜に移って亡くなるまでの17年間、制作を重ねました。この間、絵の具を厚く塗りこめて、特有のマチエールと色彩の諧調を生み出す表現を確立して評価を高めますが、個展や画集の刊行は一切拒んで孤高を保ち、先の草野心平や脇村義太郎などの文学者や学者と親交して、「文人画家」と称されるのにふさわしい姿勢を貫きました。

没後、回顧展が開催され、画集が刊行されて、ようやく朝井の全体像がうかがえるようになると、その芸術に対する賞賛が増するとともに、謎めいた人間像もいっそう際立ちましたが、それがまたこの芸術家の魅力ともなっています。

ご寄贈を受けて遺作の多くを収蔵し、調査・研究を蓄積してきた横須賀美術館のご協力によって、当館でも朝井の回顧展が開催できることとなりました。この機会にぜひ多くの方々に、朝井閑右衛門「独創傑出の画家」の芸術にふれていただきたいと思います。(学芸員 三谷 渉)



《脇村義太郎先生の像》 1976年

INFORMATION

★特別展：「朝井閑右衛門展」

会 場／ 田辺市立美術館
会 期／ 平成25年1月12日(土)～2月17日(日)
休館日／ 毎週月曜日(但し1月14日・2月11日は開館)
1月15日(火)・2月12日(火)
主 催／ 田辺市立美術館
観覧料／ 600円(480円)
学生及び18歳未満は無料
※()内は20名様以上の団体割引料金です。

林憲昭 ― ひかりのかたち ―



《Shadow of the moon (日食) III》 2012年

INFORMATION

★特別展：「林憲昭 ―ひかりのかたち―」展

会 場／ 熊野古道なかへち美術館
会 期／ 平成25年2月2日(土)～3月24日(日)
休館日／ 毎週月曜日(但し2月11日・3月20日は開館)
2月12日(火)・3月21日(木)
主 催／ 熊野古道なかへち美術館
観覧料／ 250円(200円)
学生及び18歳未満は無料
※()内は20名様以上の団体割引料金です。

来館者が20万人を越えました

昨年度最後の展覧会、特別展「生誕110年記念 上村松篁展」の会期後半3月22日に、1996(平成8)年11月1日の田辺市立美術館開館以来の来館者数が20万人を越えました。昨年度は、ここ数年の間では最も多くの方にご来館いただき、おかげで開館15周年の節目の年にこの慶事を迎えることができました。

単純に計算してこの15年間、毎年平均1万人以上の方にご来館いただいたことになり、改めて美術館職員一同が、皆様のご支持、ご支援に深謝いたしております。今後も魅力ある美術館の活動を展開してゆきたいと思いますので、どうぞ変わらぬご高配を賜りますようお願いいたします。

(館長 井口 富夫)



20万人目の来館者の方に記念品を贈呈しました

REPORT 【「生誕110年記念 上村松篁展」 記念講演会】

【日時】3月10日(土)14:00～15:45 【場所】田辺市立美術館 エントランスホール

上村松篁の生誕110年を記念してその画業を回顧した特別展の会期中に、ご子息であり同じ日本画家として一線で活躍されている上村淳之さんをお招きして、「花・鳥に囲まれて」と題された講演をしていただきました。

松篁と同じく花鳥画を制作の主とする淳之さんの、花や鳥たちとの交わり、観察と写生による体験や、制作の過程での父子の会話の思い出などは、正に生前の松篁の姿を彷彿させるものでした。

最も近くで接するとともに、同じ問題意識を共有して制作に取り組む淳之さんによる松篁の芸術の解説は、その深層をストレートに伝えてくれるものでした。

(学芸員 三谷 渉)



肉親としてとともに同じ画家としての視点からも松篁の芸術について触れていただきました

REPORT 【「画家とパレット」展 記念講演会】

【日時】7月28日(土)14:00～15:30 【場所】田辺市立美術館 研修室

この夏に開催した特別展「画家とパレット―近代の巨匠たち」の会期中、ご出品いただいたパレットと作品を所蔵する日動美術財団の長谷川徳七・智恵子ご夫妻にお越しいたいて、「パレットコレクションの思い出」と題した講演をしていただきました(当初は徳七さんお一人による講演会の予定でしたが、ビジネスパートナーでもある智恵子さんにも加わっていただいてお二人での講演となりました)。

パレットのコレクションは徳七さんのご尊父、長谷川仁氏の発案によるものですが、その形成に間近に関わってきたご夫妻が話されるエピソードの数々は、文献などからはうかがうことのできない画家たちの姿を伝えてくれました。展示されたパレットとともに、今は亡き巨匠たちの素顔ともいべき側面をうかがうことのできた貴重な機会でした。

(学芸員 三谷 渉)



ご夫妻でかわるがわる画家たちとの交際や作品の制作にまつわる思い出を語ってくれました

REPORT 【「花井正子展」 ワークショップ】

【日時】8月18日(土)13:00～16:00 【場所】近野林業会館

「花井正子展 紀州 LIVE×いとなみ」にあわせ、アーティストの花井正子さんにご指導いただいてワークショップ「BOOKデザイナーになろう!」を開催しました。これまで数多くの本の表紙を手掛けてこられた花井さんに倣って、自分たちもオリジナルの本の表紙をつくってみようという試みです。

各自手にしているのはお気に入りの本、中には句集、辞書、写真集なども。これから自分の本を作りたいので先に表紙を考えるという参加者もありました。花井さんは、実際に作品を依頼された時の例を挙げながら、読者に伝えるための大事なポイントについて話をし、パステルを使った小さな風景をサンプルとして描いて見せてくれました。みるみる出来上がっていく目の前の絵に、21名の参加者は大いに触発されたようです。制作に入ると全員黙々と取り組み、やがて机の上にはそれぞれ工夫を凝らしたカラフルな絵が次々とあらわれました。

最後に図書館でみるようなブックカバーフィルムをかけると、自分でもびっくりするほど素敵な、オリジナルの表紙ができあがりました。作品を手にした参加者みんなは本当に嬉しそうでした。ブックデザインの面白さを知り「家に帰ってまた作ってみます」という感想や、子どもたちの横で見学していたお父さんが、作品が完成に近づくにつれ「私も参加すればよかったなあ」と何度もつぶやいておられたのが印象的でした。

(学芸員 山本 泰代)



持参したお気に入りの本にオリジナルの表紙を制作しています

美術館と学校教育との連携

美術館ではこれまで何度か、学校教員の「地域社会体験研修」や中学生の「職場体験学習」の受け入れを行い、実施してきました。そのことは本紙でもその都度報告してきましたが、いくつかの稿で、このことが地域の教育機関相互の連携を進めてゆく基盤になればという旨のことを書いた記憶があります。もちろんそれらのことばかりでなく、様々な要素が積み重なってのことではありますが、最近は美術館と学校教育との連携について、また新たな展開が見えてきているように思います。

これまでもまったく例がなかったわけではないのですが、今年から当館の学芸員が要請を受けて、学校に出向いて美術鑑賞の講座を受け持つことが増えてきています(右上の写真は今年3月に行った市立本宮中学校での授業の様子―「紀伊民報」3月24日付より転載)。このことがきっかけとなり、今夏には中学校の美術科担当教員の研修会に招かれて、意見交換の場を持つ機会も生まれました。

従来からの研修、実習の受け入れも継続しており(右下の写真は今年8月に実施した中学2年生の職場体験学習の様子)、美術館と学校教育相互の連携の実践の幅が広がつつあるように思います。

美術館が有する専門的な知識や経験が学校教育との連携を通じて、児童・生徒はもとより、教員や保護者の方々にも活かされることがあれば、地域の教育機関相互の活動の拡充につながると思います。今後も進展の方向を探ってゆきたいと思います。

(学芸員 三谷 渉)



～アンケートへのご協力をお願いします～

田辺市立美術館では年2回、春と秋に広報紙「ORANGE」を発行して美術館の活動をお伝えしています。

皆様のご意見をいただいて、より良い紙面作りに活かしたいと考えています。趣旨をご理解いただき、アンケートにご協力いただきますようお願いいたします。

アンケートにお答えいただいた方の中から 抽選で5名様に「文人箋」をプレゼントします。

下のはがきにアンケート・ご住所・お名前をご記入の上、田辺市立美術館受付の回収BOXに入れていただくか、郵送してください。締切は、平成24年11月30日(当日消印有効)です。発表はプレゼントの発送をもってかえさせていただきます。

※ご記入いただいた個人情報はプレゼントの発送のみに使用し、「田辺市個人情報保護条例」に基づいて適切に管理いたします。

田辺市立美術館広報紙 ORANGE vol.17

ア ン ケ ー ト

1. どこで本紙を手にししましたか

田辺市立美術館 ・ 熊野古道なかへち美術館

その他()

2. 「ORANGE」を読むのは何回目ですか

初めて ・ 2～3回目 ・ 5回程度 ・ 毎月見ている

その他()

3. 印象に残った記事がありましたら、その記事のタイトルとご感想を

お聞かせください

タイトル()

ご感想

4. 「ORANGE」に対するご意見がありましたらご自由にお書きください

5. 差し支えなければ年齢と性別を教えてください

()才 (男性 ・ 女性)

～ ご協力ありがとうございました ～